

平成28年度山梨県立図書館協力会活動報告

竹田 泉

私たち山梨県立図書館協力会は、案内・書架整理、代読サービス、環境整備、修理・ブックコート、書庫開放補助、外国語読み聞かせなどのボランティア活動を通して利用者の皆様により良い環境、サービスを提供すべく、今年度は76名のメンバーで活動を開始しました。

このような日常活動に加えて、11月6日（日）には第三回となる「贈りたい本の市」を開催し、多くの方々のご協力を得て成功裏に終了いたしました。

さて、年度当初に私たちの活動を開始するに際し、阿刀田館長との懇談会が設けられております。

その際に館長からお伺いしたお話の概略をご紹介します。

活字文化は活版印刷の登場から500年の歴史がありますが、近年情報技術の進化、電子機器の普及に伴い活字文化が危機的状況にあります。

電子媒体を利用することにより、情報入手は迅速かつ労力も少なくなりますが、能動的に活字に触れることによって得られた情報こそが記憶、知識となります。

今後、活字文化～印刷物はどこまで残ることができるのかを考えると、最後まで残るのが図書館です。

そして、図書館に求められる事項の順位は第一に「人」、続いて「蔵書」、「館」（施設）です。「人」とは館員だけでなく、利用者も含まれ、「蔵書」より優先します。

図書館は活字文化に触れるための拠点としての存在が有効なもので、県立図書館をはじめとして、県内市町村にもそれぞれ特色を持った図書館があります。より多くの皆様に足を運び、読書に親しんでいただけますよう切望します。

また、平成29年11月には山梨県立図書館が現在の場所に移転開館し5年となり、この間、入館者数は年間90万人を越えて岡山県立図書館に次ぎ全国第二位です。

私たちも県民共有の財産である県立図書館を快適に利用していただける一助となるべく、今後も活動を継続して参ります。